NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞の魅力を探る

2．学校名

愛知県名古屋国際中学校・高等学校

3．実践者名（代表者名）

黒宮祥男

4．学年

第2・3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　2学年（94人）・3学年（73人）

6．単元（本時の学習課題）名

①記者の気持ちを探る　②記事の種

7．目標(狙い)

新聞記事に含まれる人間性や情報量を多さを考察するため、新聞記事を書いている記者の気持ちを探るとともに記事に含まれるデータ量を読み解く。

8．評価の視点

記者の気持ちを考えることで現代社会のさまざまな問題点を考察でき、また記事の用語を紐解く調査力を図る。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間指導計画に準拠せず、学期に3時限設け、また長期休暇として実践する。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①記者の気持ちを探る→(ⅰ)記事のデータ量や写真掲載などの大きさなどからその記事が書かれた背景を考察する。(ⅱ)背景を考察した上で、記者がそのデータを用いてどのようなメッセージを送っているかを考察する。(ⅲ)考察した内容を生徒ごとに発表する。(ⅳ)発表した内容に対する質疑応答を行う。

②記事の種→(ⅰ)記事の中に含まれる用語をひとつひとつ抜き出す(ⅱ)抜き出した用語を意味を調査する(ⅲ)調査した内容に含まれる用語を抜き出す(ⅳ)抜き出した用語を調査する。(ⅴ)(ⅰ)~　(ⅴ)の繰り返しを行うことで一つの記事の下部に木の”根”のような樹木図が出来上がる。(ⅵ)その根のデータから生徒がさまざまな考えを始めの記事の上部に記述する。(ⅶ)生徒の考えを発表する。(ⅷ)結果、記事を種にし、その根底にはさまざまなデータが存在し、その記事を見た読者がさまざまな感情を抱くことを知る。また新聞記事を読むためには、多くの知識が必要であり、知識がなければ、感情も生まれないことを示唆する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

①新聞記事は、単なる情報伝達のツールではなく、人間的な意図が含まれていることを知った。
②記事から思いもよらない情報を引き出せた。

12．成果と課題

成果としては、新聞には人間的な面と膨大な情報量があり読むことで自分にプラスになるツールであることを認識できたと思う。目的がなければ決して行動しない現代の子どもたちにとって新聞への目的づけができたのではないかと思う。今後の課題としては年間指導計画において定期的に実践を行い、生徒が新聞へのアプローチをする機会を継続的に行うようにしていきたい。